

**令和5年度  
学校評価書(中間期)**

**愛南町立御荘中学校**



# 愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その1

令和5年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合										
							0	50	90													
I よりよく生きる力を育む指導の充実	①	いじめ・不登校防止	いじめ・不登校の防止や解消に向け、早期発見・早期解決できる集団づくりが実践されている。	中間期 A	◇回答の肯定率が生徒は9割、教職員が10割と目標値に達しているため、評定をAとした。ただ、生徒の回答には、2の評価もあり今後も継続的に配慮していかなければならない。生徒指導部会を核として、全教職員で組織的な対応を心掛けていきたい。	生徒2-4	92	48	6	0	96											
			【目標値】 生徒・教職員の8割以上が肯定	◆毎月実施している「学校生活アンケート」や「心と体の健康チェックカード」による実態把握、生徒の変容に気付ける組織づくりを進めていきたい。不登校生徒については、学年部だけでなく、養護教諭やSC、SSW、また外部の関係機関と連携した対応ができるように体制を整えていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート ・教育相談による情報																	
	②	楽しい学校生活	教師と生徒、生徒同士が「違いを認め合う」人間関係を構築し、楽しく学校生活を送っている。	中間期 A	◇回答の肯定率が生徒は9割、保護者・教職員共に9割を超えているため、評定をAとした。4月当初は新しい集団になるため、落ち着いた生徒も見られたが、様々な活動を通して集団としての結びつきが強くなり、集団としての成長が見られるようになってきた。	生徒1-1	89	43	12	2	90											
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定		◆体育祭や文化祭等の学校行事や普段の学校生活を通して、集団づくりを経験させたい。各学級だけでなく、縦のつながりを体感することや、主体的な取組のよさを感じられる機会を作っていきたい。その中で、生徒相互、生徒と教師の人間関係・信頼関係を構築していく。	保護者1-1	53	31	4	0	95											
						教職員3-2	7	11	1	0	95											
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・学校生活アンケート																
	③	生徒の主体性を生かす活動	生徒の主体性を生かした、生徒会活動や学校行事が実践されている。	中間期 A	◇生徒・保護者・教職員の9割以上が肯定しているため、評定をAとした。昨年度8割だった生徒の評価も9割となり、主体的に生徒会活動や学校行事に取り組んでいると感じているようである。自己肯定感を高める取組を積極的に行っていきたい。ただ、生徒間でも意識に温度差があることは課題である。	生徒1-12	67	64	10	2	92											
			【目標値】 生徒・保護者・教職員の8割以上が肯定	◆企画会や職員会等で話し合う際に、生徒の主体性を持たせられるよう配慮する。また、評価を行うことで次への意欲、課題を持たせた取組ができるようにしていく。2学期は、体育祭や文化祭等、3年生を中心としたリーダーの育成に努め、その姿を下級生に示すこと、充実感や達成感を味わわせることのできる行事の企画・運営を行う。	保護者2-6	34	46	6	2	91												
						教職員4-1	10	9	0	0	100											
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・各行事後のアンケート																

【学校運営協議会における意見・提案等】

◇ほとんどの生徒が楽しく学校生活を送れているようであるが、数名は楽しくないと感じている生徒がおり、実際に学校に来ることができていない生徒も数人いると聞く。不登校の生徒が増えないように取り組んでほしい。

◆生徒指導上の諸問題の早期把握と早期解決に努めていく。また、現在不登校の状態にある生徒については、多様な学習環境の整備に努めていく。



# 愛南町立御莊中学校 学校評価公開シート その2

令和5年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合					
												0	50	90			
II 確かな学力の定着と向上	④	主体的・対話的で深い学び	主体的・対話的で深い学びを旨とした、ねらいを明確にした分かる授業を実践している。	中間期 A	◇生徒・教職員共に8割以上が肯定的な回答であった。各教科で、授業のねらいを明確にし、課題設定の仕方を工夫しながら学び合う場の設定を目指してきた。今年度は、学び合う場として、授業の中に話し合い活動を導入することを心掛け、形態を工夫しながら生徒主体の授業を実践してきた結果だと考える。	生徒2-1	60	60	20	4	83						
			保護者2-5	19	53	14	2	82									
	教職員2-1	6	12	0	0	100											
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定		◆今後も生徒が学び合い、考えを練り合って表現力を高めていけるような授業を教師が意識して実践する。授業力の向上のため、研究授業を積み重ね、授業改善を進めていく。また、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、生徒の基礎学力の定着のために各教科で小テストやドリル学習を継続して行う。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・研究授業や各種研修への取組											
	⑤	主体的な研修・自己研鑽	ICT活用を充実させ、授業内容と家庭学習を関連付け、個別最適な学習指導に努め、基礎的・基本的な事項の定着を図っている。	中間期 A	◇授業においてクロームブックなどのICT機器の活用に努め、情報交換や研修を通して情報活用能力の更なる向上に取り組んでいる。宿題もクロームブックを活用し、個々の生徒の学習状況を把握することで基礎・基本の定着に努めている。そのことが、89%の生徒がICTを活用した授業はわかりやすいと感じている結果につながっていると考えられる。	生徒2-3	50	80	12	4	89						
教職員1-2			7	12	0	0	100										
			【目標値】 教職員の8割以上が肯定		◆ICT機器の効果的な活用についての研修を継続して行う。情報の収集や判断、処理、発信などの情報活用能力の育成の中で、情報モラルについてしっかり学習させることが必要である。そのために教職員が情報モラル教育に関する技量を更に深めていく。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・研究授業や各種研修への取組 ・各教科での基礎的・基本的な事項を図る取組											
	⑥	家庭学習習慣	主体的な家庭学習の習慣が身に付いている。	中間期 B	◇肯定率が生徒は76%、保護者は73%であるため、B評価である。自主学習ノートの取組に関しては、90%以上の生徒が肯定的で、役に立っていると回答している。宿題はきちんとできるが、自主的に進んで学習に取り組むには至っていない生徒がいると言える。	生徒1-2	45	66	21	14	76						
保護者1-3			25	39	16	8	73										
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定		◆目的意識を持って学習に取り組むことを生徒に意識させていく。集会や学びに関する振り返り等の機会を利用して、生徒の主体性を高めていきたい。また、学習内容の量や質について改善し、生徒の取組を考察することが必要である。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・家庭学習時間調査 ・自主学習ノートの取組											

【学校運営協議会における意見・提案等】  
 ◇クロームブックなどのICT機器の活用に努め、情報活用能力の更なる向上に取り組んでいることは素晴らしい。家庭学習の習慣化については、家庭との連携が必要である。また、生徒自身の学習意欲をどのように伸ばすのかということが大切なのではないだろうか。  
 ◆これからの教育は、ICTを使ったデジタル教育とこれまで培ってきたアナログ教育を上手に融合させていかないといけないと考えている。生徒の学習意欲を高めるためには、学習の必要性を感じさせる必要がある。そのためにキャリア教育を充実させ、自分の将来について考えることができる生徒を育てていく。



# 愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その3

令和5年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合							
												0	50	90					
Ⅲ 心の教育の推進	⑦	中学生らしい言動 気持ちのよい挨拶	時と場に応じた気持ちのよい挨拶ができ、自分の意志で行動できる生徒が育っている。	中間期 A	◇生徒・教職員、地域の肯定率が9割を超えており、目標値に達しているため、A評定とした。昨年度末からの生徒会執行部による主体的で創意工夫した挨拶運動の成果が表れている。ただ、4の回答率は、生徒より教職員、保護者、地域が低くなっていて、「気持ちのよい挨拶」等の捉え方には違いがある。	生徒1-7	82	55	6	2	94								
			保護者1-2	34	44	10	0	89											
	教職員3-3	4	15	0	0	100													
			【目標値】 教職員・生徒・保護者・地域の8割以上が肯定		◆生徒会執行部による挨拶運動を要として、これから始まるブロック活動での3年生全体の姿から学ばせていく。さらに、学級や部活動、全校集会等の様々な場において、挨拶の意義や中学生らしい言動について、考え実践できるようにしていく。	地域1-1	8	22	1	0	97								
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の様子 ・生徒の挨拶運動の状況													
⑧	人権尊重・心の通い合い	価値観の違いを認め合い、互いの人権を尊重した学校づくりがなされている。	中間期 A	◇生徒・保護者ともに肯定率が8割を超えており、A評定とした。今年度は、1学期に人権・同和教育懇談会を行い、人権に関する授業や講演会を実施した。また、継続的に行っている人権委員会によるいじめ対策委員会や毎月の学校生活アンケートの実施などにより、人権意識の向上につながっていると考える。	生徒1-11	67	67	10	1	92									
		保護者2-7	32	52	3	1	95												
			【目標値】 生徒・保護者の8割以上が肯定		◆いじめや差別のない学校生活を実現するために、人権学習の充実や学校行事等を通じた学級や学年での望ましい人間関係づくりを大切にしていく必要がある。2学期の学校行事や行事後の「ありがとうメッセージ」の実施を通して、他者への思いやりの気持ちを持って行動できる生徒を育成し、お互いの人権や人権を尊重することができる学校を目指す。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常生活の状況 ・学校生活アンケートの結果 ・いじめ対策委員会を通じての情報													
⑨	道徳教育の充実	対話を重視した道徳科の授業を通して、人間としての生き方についての考えを深めるとともに、道徳的な態度や実践意欲が育てられている。	中間期 A	◇生徒・保護者ともに肯定率が8割を超えており、A評定とした。生徒の中には、道徳科の学習や自分自身の成長の過程に満足していないと考えている状況も見られる。	生徒2-6	89	49	7	1	95									
		教職員6-1	5	12	1	0	94												
			【目標値】 教職員・生徒の8割以上が肯定		◆問題解決的な学習や思考ツールを活用する多様な方法を取り入れた指導を充実させ、生徒がこれまでの経験を基に、主体的に学習できるように工夫していく必要がある。また、自分との関わりを通して考え、多面的・多角的な見方や考え方を共有しながら、多様性社会を生きる上で必要な資質や能力を育成するために、今後も道徳科の授業の確保や質的転換を図り、考え議論する道徳科の授業を進めていく必要がある。	〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生徒の日常の言動や変容													

【学校運営協議会における意見・提案等】  
 ◇挨拶に関しては、昨年度に比べてとても大きな声で朝から気持ちのよい挨拶をしてくれている。今年度は、登下校ともに元気な生徒が多いと感じる。人権教育については、自分とは違う価値観を認めるようになる過程では、多少の軋轢はあっても仕方ないと思う。ただ、見守りを行い間違っただけの方向へ行かないように導いてあげてほしい。また、他者に優しくなるためには、自分自身に余裕がないと難しい。心の余裕を持って学校生活を送ってほしい。  
 ◆3年生を中心に、大きな声であいさつをすることができている。1、2年生が、3年生を模範として継続実践できるように支援していく。これからは多様性の時代である。そのためにも多様性を受け入れることができる生徒を育てられるよう尽力する。生徒も教員も仲間を信頼し合い、寛容さを大切にし、温かい学校社会を築いていく。



# 愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その4

令和5年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合							
												0	50	90					
IV 健やかな体の育成と安全教育・防災教育の推進	⑩	体力の向上	授業や部活動を通して、運動の習慣化と体力向上が図られている。	中間期 B	◇保護者、教職員の8割以上が肯定しているが、生徒の評価では全体の8割には届いていないため、Bという評価になった。	生徒1-6	78	37	25	6	79								
			【目標値】 教職員・生徒・保護者の8割以上が肯定	◆夏休みは、部活動が主な活動になると思うが、今後は運動会の練習や体育の授業で体を動かす場面や機会が増えるので、生徒の評価も上がってくるものと考えている。	保護者2-8	36	48	4	0	95									
	教職員7-1	8	11	0	0	100													
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・新体力テストの結果													
⑪	安全・安心な学校づくり	持続可能な防災教育の充実を図り、生徒自ら安全確保のために主体的に行動する態度を育成している。	中間期 A	◇生徒、教職員の評価がほぼ100%に近付いており、A評価。抜き打ちの防災訓練などもあり、生徒の防災意識は高まっていると考える。また、各学年で防災学習を推進していることから、向上していると考えられる。	生徒2-7	99	45	2	0	99									
		【目標値】 生徒・教職員の8割以上が肯定	◆各学年ごとに総合的な学習の時間を中心に、防災学習を進めていく。その中で、自分たちの身を守るための知識や実践力を身に付け、緊急時に即座に行動できるようにしていく。今後も現在の活動を続け、様々な場面を想定した防災訓練や防災教育が大切だと考える。	教職員7-2	4	15	0	0	100										
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・毎月の避難訓練の様子 ・防災学習													
⑫	基本的な生活習慣の定着	生徒自身による「早寝・早起き・朝ごはん」等、基本的な生活習慣が定着している。	中間期 A	◇生徒の中には、朝起きるのが遅く遅刻する生徒もいるが、全体の8割の生徒が意識して生活できている。ネット端末を利用し、就寝が12時以降の生徒もいる。今後も高い意識が持続できるように支援したい。	生徒1-9	66	56	17	6	84									
		【目標値】 生徒の8割以上が肯定	◆生徒の中には、生活習慣が乱れていると思われる生徒もいるため、少しでも改善できるように心と体の健康チェックでの個人返信や、生徒保健委員会での呼びかけや集会など、働きかけや指導を続けていきたい。																
						〈自己評価アンケート以外の評価材料〉 ・生活チェックカードの結果													

【学校運営協議会における意見・提案等】

◇体力の向上については、部活動の日数が減ったことや、運動部に所属していない生徒が増えたこと等が影響しているのではないかと考えられる。校内での防災学習には参加していると思うが、地域の防災学習となると参加がほぼない。12月10日(日)19:00~21:00に栄町夜間避難訓練を実施する。避難の課題を見つけるためにも教員生徒ともに参加していただきたい。「早寝・早起き・朝ごはん」については、何か熱中できることを見つけるとネット依存した生活からは脱却できるのではないかと考えられる。

◆体力の向上については、運動の大切さが分かっていないということが考えられる。保健指導を通して、体を動かすことの大切さを伝えられるように努める。防災学習については、地域の避難場所を知らないという生徒がおり、地域のことについて知るための学習を推進していく。何か熱中できることを持っている生徒は自ずと規則正しい生活ができると考える。そのために、将来に向けてのキャリアを積み上げていけるような教育実践をしていく。



# 愛南町立御荘中学校 学校評価公開シート その5

令和5年度中間期(7月)実施

【評価基準】 A:目標を達成 B:8割程度達成 C:6割程度達成 D:C判定以下

重点目標	指標No.	キーワード	評価指標及び目標値 (期待される姿)	評定 (比較)	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価アンケート	4	3	2	1	%	4・3の割合									
							0	50	90												
V 家庭や地域とともにある学校づくり	⑬	地域とつながる教育	「人」や「仕事」など、地域とのつながりを生かした教育活動に工夫して取り組んでいる。	中間期 A	◇教職員・地域共に肯定率が100%なので、評定をAとした。今年度は1学期に、総合的な学習の時間の取組として1年生は集団宿泊研修に向けての学習、3年生は職場体験学習、2年生は修学旅行の調べ学習等を行い、訪問する地域や活動に関わる各地域の人々とのつながりを持つことができた。	教職員4-2	8	10	0	0	100										
			【目標値】 教職員・地域の8割以上が肯定	◆2学期以降も、体育祭、文化祭等の各行事やボランティア活動において、できる範囲で、地域の「人々」とのつながりを意識させながら取り組んでいく。また、地元の自主防災組織との連携を図り、防災学習についても進めていきたい。	地域2-2	7	22	0	0	100											
	【自己評価アンケート以外の評価材料】 ・体験学習後の生徒の感想等																				
⑭	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実が図られ、関係機関との連携を図った教育的ニーズ対応した教育が実践されている。	中間期 A	◇保護者、教職員の肯定率が8割を超えており、A評価とした。教職員、支援員が連携をし、配慮を必要とする生徒に対し、きめ細やかに対応をし、安心して成長できる環境づくりに努めた。	保護者2-7	32	52	3	1	95											
		【目標値】 保護者・教職員の8割以上が肯定	◆通常の学級に在籍する配慮が必要な生徒に対し、課題の配慮など適宜個々に応じて柔軟な対応ができるようそれぞれの持つ特性をより把握していく必要がある。	教職員5-1	10	8	1	0	95												
【自己評価アンケート以外の評価材料】																					
⑮	開かれた学校づくり	保護者や地域の意見・願いを幅広く聞くとともに、学校の取組や生徒の様子を積極的に公開するなどして、学校運営協議会の協力の下、家庭・地域と連携した開かれた学校づくりに努めている。	中間期 A	◇保護者・地域の9割以上が肯定的回答であるため、評定をAとした。学校・学年、各担当者から様々な「たより」が定期的に発行されていることや、HPの更新が毎日行われていること、クロームブックによる全校生徒への連絡・アンケート等で双方向のコミュニケーションが取れていることなどが、保護者の肯定的回答に表れている。	保護者2-9	37	46	5	0	94											
		【目標値】 ホームページ、各種たよりの保護者の閲覧率が8割以上	◆2学期以降も、HPや学校・学年等からの各種たよりを使って、授業や休み時間の様子、学校行事、生徒会活動、部活動など、教育活動全般の様子を幅広く発信していく。また、各種たよりが生徒を通じて保護者の手に確実に渡っているか等の確認をしながら、更に家庭や地域との連携を図っていく。	地域2-3	14	18	0	0	100												
【自己評価アンケート以外の評価材料】 ・地域との連携の状況																					

【学校運営協議会における意見・提案等】

◇3年生の職場体験学習では、46事業所全てから事後アンケートをいただき、肯定的評価をいただいた。また、一人一事業所での体験ができ、地域で生徒を支援していただいていることを感じた。また、HPやマチコミを通して、学校生活や生徒の活躍をタイムリーに発信しているので、学校の様子がよく分かる。教育的ニーズに対応した教育については、先生方もよく配属され地域としても有り難く思う。今後もさらに一人一人に合ったきめ細やかな対応をお願いしたい。

◆職場体験学習では、本当に地域に支援していただいていることを実感し感謝している。情報の発信については、積極的に継続実践していきたい。教育的ニーズの対応については、ICT教育を含め、多様な教育環境を整備していきたい。